

常照

第834号

春を迎えて

長い長いと思っていたこの冬は、例年に無い大雪で、毎日の除雪作業に煩わしさを感じたシーズンでした。「お彼岸までの辛抱だ」と自分に言い聞かせながら春を心待ちにしておりましたら、これまた例年に無い暖気によって私自身経験したことのない早さの雪解けとなり、お彼岸の頃には道路や境内の雪はすっかり解けてしまいました。

この頃には長い間、不安や不便

を強いられてきた新型コロナウイルス感染症の影響も、政策により様々な制限が軽減されて外出がしやすくなつてまいりました。近隣の観光地にも国内外からの観光客が多く見られるようになりました。その様な中で、なんとと言っても忘れられないのが「WBC」野球の世界大会です。予選大会が行われた東京ドームでの日本戦では約5万人の観客が入り、賑やかな声援が送られていました。普段野球に関心の無い方もその様子をテレビなどで観戦された事と思います。各国、選抜された選手達が自国のチームの垣根を越えて、母国の誇りをかけて競い合いました。勝負事ですから勝利に歓喜するチームもあれば、敗戦に涙をのむチームもあります。しかし、今大

会においては勝ち負けの結果以上にお互いをリスペクト（尊敬）しあい、国や人種、文化の違いを超えて「人」と「人」との交流、尊厳、絆を深める発言が多く見られたことに感動を覚えました。しかし、そのような歓喜の渦の中で目を他方に向けると、隣国では戦争が一年以上も続き、多くの人々が家を失い、国を追われ、命を落としています。その様子を映像や文字で知る度に世界中の人々が心を痛め、一刻も早い戦争の終結を願ってやみません。多くの人々が世界の平和を願っていても、一部の人間の思惑で争いが始まり、平和への納め方でもそれぞれの思惑が働き、中々和平への解決の道筋が見えてきません。また国内に目を向けても、経済問題による格

差、思想・主義の違いから分断が起き、様々な差別を生んでいきます。それが社会の仕組み、歴史の流れと受け止めなければならぬのでしようか。これまでも述べたとおり、人々は国、言語、文化、思想、宗教など様々な違いがあります。三者三様、十人十色という言葉があるように、人には人の数だけ違いがあります。私たちは他人の事が気になり、知らず知らずのうちにもどうしても自己と他者を比べて妬み、蔑み、僻んでしまいい、お互いを認め合う事が出来ません。でもこれが人間の本質なのかもしれません。WBCで熱狂した世界の人たちと一体感を感じられたつもりが、実はその裏では多くの悲しみも生まれていたという事実に気づいたとき、とても悲しい

気持ちになりました。

四海の内みな兄弟

「同一に念仏して別の道なきがゆえに。遠く通ずるに、それ四海の内みな兄弟とするなり」『教行信証』
これは親鸞聖人が曇鸞大師の『浄土論註』から引用された御言葉ですが「共に」という存在である為に何ができるのか、親鸞聖人の「共に悲しみ、共に苦しむ」仏教の教えを頂き、本願を信じ同一に念仏申すものは、遠く孤独で悲しみの中にあってもこころが通じあつて一つになれる。他者とつながりあつていることを実感できる。このことにより自分と関係している世界中のすべてが皆、兄弟姉妹、家族とされるのだと頂けるのではないでしようか。私達はい

のちは他のいのちと互いに深く関わり合い、支え合い、つながり合っているいのちであり、その深いいのちのつながりを自覚することにより決して孤独ではなく、ひとつの共なるいのちを生きている事実を教えて下さいます。また聖人は『正信偈』に『凡聖逆謗齊廻入（凡夫も聖者も、五逆、謗法のものも、みな本願海に入れば）』
『如衆水入海一味（どの川も海に入ると一味になるように等しく救われる「親鸞」）』と著されました。たくさんの河川の水が大海に流れ込むと、同じ塩味の海水になる様子を海のはたらきにたとえられます。海は、あらゆるものを受け入れて、はねつけません。受け入れただけでなく、すべてを自分と同じものにしてしまう働きがありま

す。きれいな水も汚れた水も、また、大河の水も、小川の水も、同じように受け入れ、同じ潮（うしお）にかえ、一つの味としてしまします。

阿弥陀如来の慈悲も、この様に煩惱具足の凡夫も、はては、大恩ある親に背いて殺したりする五逆の悪人や、仏の教えを信じないばかりか、謗つてやまない謗法の罪人であつても、ひたすらに仏道を歩まれる菩薩と同じ様に受け入れ、すべてを同じものに変えてしまわれまますから、海にたとえられているのです。海があらゆる水と同じ潮に変える様に、如来の慈悲はどんなものをも分けへだてなく功德の潮に一味にされると信心の利益として示されているのです。

七月の常例布教（ご法話）のご案内

○前期 七月七日（金）～九日（日）

北海道教区後志組無量寿寺
講師 朝山明彦師

七月十日（月）～十一日（火）

北海道教区空知北組龍泉寺
講師 寺垣信晃師

○後期 七月十三日（木）～十六日（日）

安芸教区佐伯東組長福寺

講師 石田博文師

○場所 小樽別院内

○時間 午後二時（法要終了後）～

午後三時半

浄土真宗のみ教えについて布教使にご法話を
して頂きます。どうぞお誘い合わせいただき、
ご聴聞に来院ください。席の間隔を保ち、換気
実施の上、お待ちしております。

発行所

☎047-0017

小樽市若松一丁目四番十七号
本願寺小樽別院

電話 (011) 271-0744
FAX (011) 271-0808
テレホン法話 二七一一六一六番